

▲▼▲▼△▽△▽▲▼▲▼△▽△▽▲▼▲▼△▽△▽▲▼▲▼△▽△▽

広島県緑化センターメールマガジン VOL.299 H27.6.18

△▽△▽▼▲▼▲▽△▽△▼▲▼▲▽△▽△▼▲▼▲▽△▽△▼▲▼▲

夏至が近づき日も長くなりました。

園内ではホトトギスやツツドリが賑やかにさえずっています。

★ 開花情報

ナナミノキ（七実の木） モチノキ科モチノキ属（写真1）

山地に生える常緑高木で、静岡県以西から九州にかけて分布します。5～6月に新枝の葉腋に花序をだし、淡紫色の小さな花を咲かせます。雌雄別株で、雄花序のほうが多く花をつけます。果実は秋に赤く熟し、美しい実がたくさんなので名付けられたという説があります。他にも、モチノキに似て実が長いので「ナガミノキ」が訛ったという説や、実が美しく名が知られているという意味の「名の実の木」が訛った等、諸説あります。

場所：苗畑下のり面

クマノミズキ（熊野水木） ミズキ科ミズキ属（写真2左）

山地に生える落葉高木で、西日本を中心に東北地方まで分布します。ミズキ科特有の枝張りで、水平方向に広げ、階層状の樹形になります。類似種のミズキは葉が互生し、5月に開花するのに対して、クマノミズキの葉は対生で、花の時期は1ヵ月遅くなります。白い小さな花は枝先の直径10cm前後の花序に集まって咲きます。

場所：東山作業路他山林内

キササゲ（木大角豆） ノウゼンカズラ科キササゲ属（写真2右）

果実がマメ科のササゲに似ているのでキササゲと呼ばれています。中国大陸中部から南部原産の落葉高木で、江戸時代の初期には栽培されていました。また一説では、万葉集の中での「ひさぎ」がキササゲだという説もあります。6～7月に枝先に花序をだし、黄白色の花を多数つけます。縮れた花弁は長さ2～3cmの漏斗形で上部は5裂し、内側には暗紫色の斑紋があります。薬用植物で、樹皮は解熱、駆虫、黄疸治療等に用いられます。

場所：苗畑横谷浴い

ヒメシャラ（姫沙羅） ツバキ科ナツツバキ属（写真3左上）

ナツツバキ（別名シャラノキ）（写真3左下）の仲間、全体的に小ぶりなのでヒメシャラと呼ばれています。関東西部から九州の山地の落葉樹林内に自生する落葉小高木で、庭木や公園樹に稀に利用されます。花は6～7月に開花し、直径1.5～2cmで白色の花弁が5枚つきます。

場所：ヒメシャラ 県木の森入口向かい、第2駐車場

ナツツバキ 出合いの広場、レストハウス前他各所

キンシバイ（金糸梅）オトギリソウ科オトギリソウ属（写真3右上）

中国大陸中部原産で、日本には1760年に渡来した記録があります。常緑または半常緑の低木で公園樹や庭木として用いられます。6～7月に直径3～4cmの黄色の花を枝先につけます。雄しべは多く、約60個ずつ5つの束になります。類似種のビョウヤナギ（写真3右下）も旧アスレ入口で咲いています。

場所：見本園、多目的広場、園路沿い他

緑化センターホームページ（<http://ryokka-c.jp/>）に開花状況を掲載していますので、ぜひご覧ください。また園内にも、各月の開花マップがありますので、来園の際にはお立ち寄りください。

開花等の詳細は緑化センター管理事務所（082-899-2811）へお問い合わせください。

★園内開花情報まとめ

咲き始め	キョウチクトウ、キンシバイ他
見頃	チュウゴクボダイジュ、クマノミズキ、タチバナモドキ、ナツツバキ、ヒメシャラ、ビョウヤナギ、キササゲ、ネズミモチ、イワガラミ、タイサンボク、リュウキュウマメガキ、クロガネモチ、アジサイ、カシワバアジサイ、サツキ、マテバシイ、クリ、オカトラノオ、ヒナギキョウ、ドクダミ他



写真1 ナナミノキ（苗畑下） H27.6.16



写真2左 クマノミズキ (東山作業路) H27.6.17



写真2右 キササゲ (苗畑下谷) H27.6.17



写真3左上 ヒメシャラ (県木の森入口向かい) H27.6.16



写真3右上 キンシバイ (見本園) H27.6.17



写真2左下 ナツツバキ (出会いの広場) H27.6.17



写真3右下 ビョウヤナギ (旧アスレ入口) H27.6.17